



第42号
 発行人：小松香織
 編集人：西野嘉一
 発行所：京都市上京区
 下立売通新町西入
 京都府庁旧本館2階
 電話：075-451-8146

■ “平成 29 年度定時総会開催される”



井上 満郎先生

京都観光文化を考える会・都草の平成 29 年度の定時総会が 5 月 29 日京都府庁旧議場で開催されました。

第 1 部は井上満郎先生の「平安京設立の背景—奈良から京都へ—」と題して『続日本書紀』『日本後記』『日本略記』の記述をひもときながら特別講演が行われました。

引き続き第 2 部の通常総会に入り議長に選任された西野 嘉一理事のもと、審議が行なわれました。

第 1 号議案の平成 28 年度事業については小松 香織理事長より報告されました。特に前年度は 10 周年の記念式典・祝賀会が盛大に行われたこと、またこの 10 周年を期に新たな事業「わくわく倶楽部」、「京のこと語り隊」がスタートしたこと等の説明があり承認可決されました。

第 2 号議案の活動計算書は藤井 久美子理事より報告がありました。事業収入は昨年実績の 35%UP。財務内容においても健全であることが報告されました。引き続き林 寛治監事より監査の結果が適正で正確であったことが報告され、承認可決されました。

第 3 号議案は役員の新任と退任の件について熊谷 喜輝副理事長より報告がありました。新任は須田信夫氏（IT 管理部担当）、退任は中江 好喜理事、

鹿田 晴彦理事、大村 隆清理事が報告され承認可決されました。その後新任の須田理事の挨拶、中江理事の退任の挨拶がありました。

第 4 号議案は事業計画案について小松 香織理事長より説明がありました。平成 29 年度は京都府、京都市、京都商工会議所等の連携をより緊密にし、会員活動の充実を図る。10 周年記念事業を積極的に推進する。会員皆保険により会員のより安全を図る。会員台帳の活用、ホームページの充実を図るなどに重点を置いて事業推進をはかることが報告されました。事業計画についても承認可決されました。

第 5 号議案は平成 29 年度活動予算案が高橋 明俊副理事長より説明されました。平成 29 年度の予算案は会員事業においてガイド研修、会員皆保険や研究発表会の無料化等。受託事業においては昨年並みの実績を目標としての予算が組まれていること等の説明がされた後、承認可決されました。

審議終了後に都草の 29 年度組織体制について熊谷 喜輝副理事長より、今年度事業に関する組織体制の説明がされました。

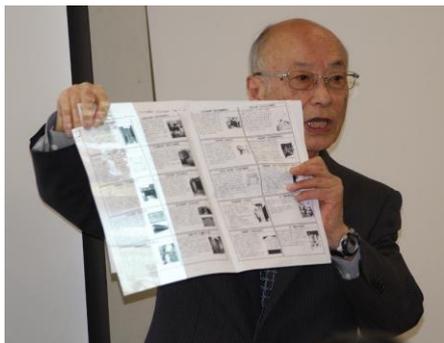
又その他の質問として坂本特別顧問の公的業務の内容についての質問があり、本人より詳しく説明が行われました。

議長より都草は創設以来 10 年を経過し、平成 29 年度以降退任されていく理事や会員の方も多くなってこれからの 10 年は今までと違った舵取りが必要になってまいります。世代交代を含め、今後の会員の皆様のますますのご支援とご協力、積極的ご参加をお願いしたいとの挨拶がなされ無事平成 29 年度の通常総会が終了いたしました。（理事 藤井 久美子）



◆◇ 高齢者大学校で講演してー「京のど真ん中 四條烏丸は『和歌』の花盛り」◇◆

開催日 2017 年 4 月 20 日



四條烏丸周辺は古くから人々が生活していた所ですが、残念ながら古い寺社、名所旧跡が有りません。無論国宝や重要文化財も。それは火災、戦乱、郊外への疎開などが主な理由です。

しかし、この地域は千年の時を刻んでおり、本当の京の良さを有しています。五条通（現在の松原通）は、六条天皇、二条天皇、高倉天皇、安徳天皇などの内裏が有った所です。さらに、これらの内裏近くには、歌人で有名な藤原俊成、藤原公任、小野小町、菅原道真などが住んでいました。

また、義経記に出てくる牛若丸と弁慶との争いの場所、平家物語に出てくる俊成と平忠度との和歌問答が有った場所、道元や親鸞が死去した場所が存在している所です。

その他多くの神話や歴史上の人物が浮かび上がる場所でも有ります。素戔鳴尊、清少納言、和泉式部、太閤秀吉、本居宣長など、次々と大物の歴史上の人物が関係した場所です。神代の昔から、平安、鎌倉～江戸時代の人物が登場してきます。この地域にある古地図、駒札、石碑、小さな祠、寺社を調べ訪ね歩き、それらに関する人物を拾い上げると、この時代の人物は全員「和歌」を詠んでいます。「和歌」はその人物の心情、時代背景を詠んでおり、書籍、単行本には記載されていない情報が隠されています。

このような歴史的ポイントを探し歩き、歴史上の人物を描きだし、その人物が詠った「和歌」を鑑賞することにより、歴史と文化を知ることが出来ます。

ー いくつかの例を挙げ説明します ー

- 1) 烏丸通四條下る三菱東京 UFJ 銀行の西南隅に、「鈴屋大人偶講学旧地」と刻した石碑がひっそり隠れています。これは、本居宣長が京都で弟子に国文学などを教えていた場所を示しています。本居宣長の有名な和歌「しき嶋の大和こころを人間はば 朝日に匂う山桜花」が思い出されてきます。素晴らしい和歌です。
- 2) 高辻通西洞院西入ル北側に、「道元入滅地」の石碑があります。道元は「春は花夏ほととぎす秋は月 冬雪さえてすずしかりけり」と詠みました。
- 3) 松原通西洞院東入ル北側の光圓寺に「親鸞聖人御入滅の地」の石碑があります。親鸞は、9歳の時「明日ありと思う心の仇桜 夜半に嵐の吹かぬものかは」と詠みました。



1) 「鈴屋大人偶講学旧地」



2) 「道元入滅地」



3) 「親鸞聖人御入滅の地」

上記の三首とも、表面づらの三十一文字の意味は、簡単ですが、詠み人心情はなんであろうか・・・
京都の真ん中を歩いて千年の歴史と文化を学べることは、これこそ本当の京都の良さを知ることだと思っています。(会員 木村 哲夫)